

事業の実施状況等について(受託者自己評価)

【旭区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会・関西総合研究所)

取組実績の評価(1)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施状況	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地活協ラウンドテーブルの開催 ●人材育成事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラウンドテーブルは、防災点検まち歩きの実践、防災スリッパ作りなどは子どもたちにも好評であった。 ●防災点検まち歩きを10地域全域で支援を実施。地域住民の横断的な情報交換につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災を切り口に、地域住民と一緒にまち歩きを実施することで、地域課題を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のビジョンや課題の共有のため、防災をテーマとするだけでなく、地活協各部会の構成員同士の連携を強める取り組みが必要である。
	(2)「つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力的な広報のツール・コンテンツづくりによる参加の促進 ●区民祭りなどの市民協働事業の支援 ●プロボノを利用した地活協と企業との連携・協働 ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ支援は10地域すべてで開設されている。 ●プロボノによる広報支援ができた。 ●かわら版作成支援が順次進んでいる ●市民協働事業開催の支援を実施(8月30日区民まつり) ●1月17日3校合同防災の分かれ道と新聞紙スリッパづくりを実施。地域と学校、学校同士の連携につながった。 ●プロボノマラソンによるフェイスブック立ち上げで広報活動が広がった。 ●1DAYプロボノの実施。FB(フェイスブック)を立ち上げた(古市)及び、まちづくりセンターにFBを立ち上げることができた。 ●市民協働スペースの利用が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報の重要性が地域に浸透した(ホームページ、かわら版) ●3校合同防災の分かれ道、新聞紙スリッパづくりは学校同士、地域と学校との連携促進につながったと思われる。 ●企業人と地活協との協力により新しい価値観を地活協に提供することができた。 ●旭まちづくりサロンは、市民が自由に利用できるスペースとして有効であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織づくりについては、構成団体会長会議や部会の開催で一層支援していく。 ●これまでに蓄積された地域資源が活かされつつあるが、そのノウハウを推進させていく必要がある(会計システム、ホームページ、まち歩きのまとめ方法など)。 ●防災について、小中学校と地域の連携を、より一層展開していきたい。 ●広報の分野でのプロボノの利用により、地域が実際に体感した有効性を広報していく。 ●市民協働スペースを更に利用しやすくなるのが課題(例えば、団体資料の保管場所を提供するなど)
	(3)「組織運営」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●組織運営の基礎チェック ●事業実施支援 ●会計事務支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●総会開催に向けての資料作成を支援した。 ●組織づくりについての支援を実施した(高殿、高殿南:連合との役割分担、部会構成、役員構成など) ●防災点検まち歩きはワークショップ形式で円滑に進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事務支援としての分かりやすい会計処理ソフトは、担当者に安心感をもってもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業実施は防災関係に特化することで多くの人の参加を促したい。
	(4)区独自取組	-	-	-	-

取組実績の評価(2)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノを利用した地活協と企業との連携・協働(再掲) ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の運営(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ●1DAYプロボノの実施。FB(フェイスブック)を立ち上げた(古市)及び、まちづくりセンターにFBを立ち上げることができた(再掲)。 ●市民協働スペースの展開が進んだ(再掲)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業人と地活協との協力により新しい価値観を地活協に提供することができた(再掲)。 ●旭まちづくりサロンは、市民が自由に利用できるスペースとして有効であると思われる(再掲)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報の分野でのプロボノの利用により、地域が実際に体感した有効性を広報していく(再掲)。 ●市民協働スペースを更に利用しやすくなるのが課題(例えば、団体資料の保管場所を提供するなど)(再掲)。
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーバイザー 3日×8H×1名 ●支援員3名 3日×8H×3名 ●コミュニティ育成支援事業 担当 5日×8H×3名 ●事務補助員 5日×4H×1名 	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーバイザー1人、地域まちづくり支援員 3人 ●コミュニティ育成支援事業 担当 5日×8H×3名 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災まち歩きの進捗ととりまとめ、かわら版作成により、防災と広報に対する意識が向上した。 ●区民まつりの運営を円滑に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が自律してまち歩きやかわら版作成に関われるよう、マニュアル作成や現場での働きかけを強化する。 ●区内の様々なイベント支援を継続させる。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	<ul style="list-style-type: none"> ●専門アドバイザー 金井文宏(地活協運営等)、嵯峨生馬(プロボノプロジェクトマネジメント)河原伸一(ホームページ作成支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノはワンデイプロボノで、3名の専門家が地活協におけるFBの立ち上げを支援し、広報の視野が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノのプロの目でみて外部評価により、地活協のふりかえりが可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノによるプロの企業人と地域活動の連携のため、より一層の支援が必要。
	(3)区との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●市民協働スペース旭まちづくりサロンの運営(再掲) ●区役所担当との定例会議を毎月実施(第2金曜日)して、円滑な連絡調整を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民協働スペースの利用が進んだ。 ●区役所1階に地活協発行のかわら版を掲示するコーナーを設けて貼りだした。また、一般の方々に配布用の棚を設け、自由配布を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●かわら版の公開により、より広く地活協の広報が可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●かわら版とホームページの重要性を認識してもらう必要があるため、今後とも支援を継続していく。

取組効果の評価

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析	ウ 今後の改善策等
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・適切であると感じている: 60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる: 50%以上	<ul style="list-style-type: none"> ●適切である(支援が役に立っている) = 57.9% → 59.4% ●役に立っていない 29.0% → 23.1% ●自律的な地域運営に取り組んでいる 28.3% → 37.9% ●取り組んでいない 51.7% → 39.6% (注: 中間 → 今回)		
	(2-1) 「地域課題への取組」達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●防災まち歩きの実施(全10地域終了)により、地域の防災意識の向上が図られた。 ●地活協自体の理解が徐々に進んでいる。 		
	(2-2) 「つながりの拡充」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ支援、防災まち歩き記録や祭りなどを掲載したかわら版作成支援などにより、徐々に成果が上がっている。フェイスブック支援も開始した(プロボノ活用で1地域)。 ●区民まつりに地活協ブースを提供することで、一定の広報ができた。 ●3校合同防災教室(今市中、古市小、太子橋小、古市地活協、太子橋地活協)の実施により、学校と地域の連携が一步進んだ。2月8日は高殿地域において、ジュニア防災リーダー結団式が実施され、15名のジュニアリーダーが誕生した。 ●プロボノに参加(1地域) ●プロの企業人と地域の連携は、お互いの啓発につながる。 ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の開設により、市民活動団体の利用が進んだ(15名程度の会議が可能。パソコン・プリンター常備)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既に自律的な運営がなされている地域が多く、支援の必要性を感じていない状況がある。 ●支援の対象が、地域の限られたメンバーに限定されている実態がある(限定された人材に情報や権限が集中しており、時間的余裕がとれない)。 ●地活協自体の意義や目標とする方向性について共通認識が十分に浸透していない。 ●既存の各団体が協力しあって事業に取り組むという意識が育っていない。 ●プロボノについての理解も十分に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が慣れていない会計支援、事業報告支援、かわら版作成支援を継続する。 ●広報の支援で、テンプレートを導入し、ホームページとかわら版をリンクさせることで、担当者に負担の少ない運営ができるように支援する。 ●防災など地域住民が感心の高く、且つ共有の分野を課題にし、ラウンドテーブル、ワークショップを実施するなど、地域のビジョンを考える機会を増やす。 ●会議の場などで地活協理解を深めるための説明を継続する。部会ごとの役割分担を図っていくように促す。 ●小学校と地域との連携を強化するために、防災授業などを地活協と協力して実施できるように働きかけを継続していく。
	(2-3) 「組織運営」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地活協全体に対する理解は進みつつあるが、特に「部会」構成に対する理解が遅れている。 		
	(2-4) 「区独自取組」の達成状況	-		
(3) その他の効果のあった内容	<ul style="list-style-type: none"> ●防災点検まち歩きの実施と、その内容をかわら版で報告することで、防災意識の向上が図られ、広報に対する理解が進んだ。 			

全体的な評価

全体的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ●防災点検まち歩きの実施、子どもと地域に対してのワークショップ「防災スリッパ作り」の提供、かわら版作成、ホームページやフェイスブックの作成、会計ソフトの提供など、地域の人と人をつなぐ取り組みと、事務的支援、事業実施支援など、成果は上がっている。今後は、より一層の若年層の参加・参画、人材発掘の支援をしていくためにも、より一層地活協理解を深めて頂くための支援が必要である。 ●平成27年1月17日、3校合同防災教室が地域住民・保護者とともに実施され、世代を超えた連携の一步となった。平成27年2月8日、高殿地域において、ジュニア防災リーダー結団式が実施された。他の地活協代表者も3名参加された。以上のような世代や組織を超えた取り組みにより、地域全体の防災意識の向上につながることを期待される。
--------	--